

生命のにぎわい通信

第76号：令和7年(2025年)10月 発行

発行：千葉県環境生活部市自然保護課
生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
(千葉県立中央博物館内)

TEL:043-265-3601 FAX:043-265-3615

URL:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

E-mail:monitor@bdcchiba.jp

秋を奏でる虫の音

セミの声がいつの間にか遠くなり、草むらから虫の音が聞こえる季節になりました。コオロギやキリギリスなどの仲間は、基本的に鳴くのはオスに限定されます。オスはメスを呼ぶために翅をこすり合わせて音を出しますが、その仕組みは楽器のバイオリンにたとえられます。

バイオリンの弦にあたるのは、一方の翅にあるザラザラとしたヤスリ器と呼ばれる器官です。もう一方の翅には弓の役目をする摩擦器またはこすり器と呼ばれる器官がついていて、この摩擦器とヤスリ器を擦り合わせることで「鳴き声」を作り出します。翅が生えるのは成虫になってからなので、幼虫のうちは鳴くことはできません。

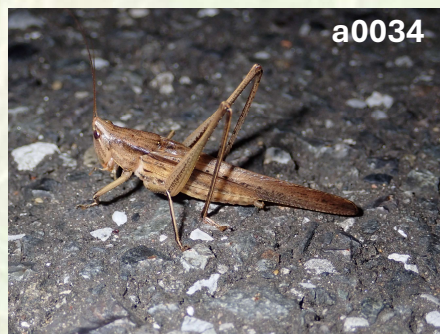
種類ごとに音色が違うのは、同種のものに呼びかける言葉のような役割だから。秋の夜長に響く虫の音は、そのそれぞれが、命をつなぐ虫たちの渾身の呼び声なのです。

にぎわい投稿に見る「鳴く虫」

一言で「鳴く虫」といっても種類は様々です。ほとんどの鳴く虫が冬前には卵を残して死んでしまう中、クビキリギリスなど一部の種は成虫で越冬し、春いちばんに鳴き始めます。昼と夜で鳴き方が違うヤブキリは6月の末頃から、続いて7月上旬あたりからはヒメギス、ヒガシキリギリスが鳴き始めます。それぞれの虫の鳴き声は、インターネットやQRコード付きの図鑑などで聞くことができます。

10月は本格的な秋の鳴く虫の季節です。皆さまからの投稿の一部をご紹介します。写真上は団員番号です。

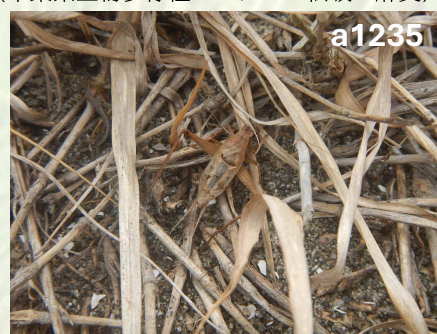
(千葉県生物多様性センター 松坂 麻美)



クサキリ



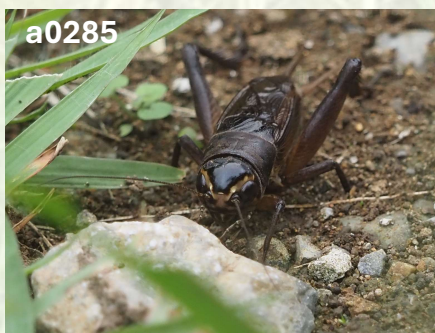
ツユムシ



マツムシ



アオマツムシ



エンマコオロギ



クビキリギリス



クツワムシ (褐色型)



スズムシ



セスジツユムシ

参考文献：奥山風太郎『鳴く虫ハンドブックーコオロギ・キリギリスの仲間』文一総合出版（2016年）

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> 生物多様性センター:<https://www.bdcchiba.jp>

古典文学と里山の生き物たちの世界

第三十回 フクロウ

Strix uralensis フクロウ科

詩人 大島 健夫

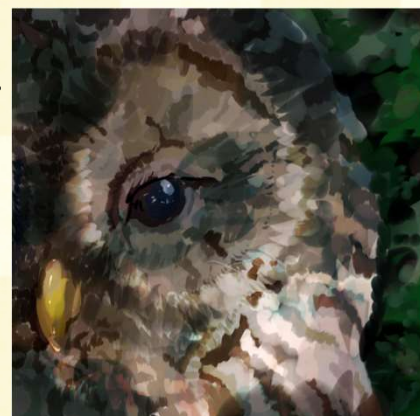
日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラムW杯日本代表詩人の大島健夫が、生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

丸くて大きな頭をしたフクロウは、他の鳥とはずいぶんプロポーションが違います。夜行性のフクロウが、日中、眼を細めて木の枝にじっととまっているところはいかにも思慮深そうに見え、その姿から「森の哲学者」などとも呼ばれることもあります。

室町時代末期に成立した、作者不詳の御伽草子『ふくろふ』は、そんなフクロウの恋を主題にした物語です（御伽草子についてはにぎわい通信Vol.53、Vol.65をご覧ください）。

主人公は、83歳になる年老いたフクロウ。ある日、琴を弾くウソ（「嘘」ではなく、「鶯」と書くスズメ目の美しい小鳥です）のお姫様に一目惚れしてしまいます。思い悩んだ末にカラスやサギに相談し、最終的にウソ姫様の幼馴染のヤマガラに頼んでラブレターを届けてもらうことに。

ウソ姫様は返事をくれたことはくれたのですが、それはいかにも事務的な文面でした。やはり縁がなかったと落ち込むフクロウの夢枕に、薬師如来が現れてウソ姫様からの返信に込められた秘密を教えてください。なんと、通り一遍の返事に思えたウソ姫様の手紙には、フクロウの心にこたえ、フクロウをデートに誘う暗号が隠されていたのです。ついに相思相愛となり、幸せな時を過ごすフクロウとウソ姫。しかし、それも長くは続きませんでした。もともと鳥界のアイドル的存在だったウソ姫様が、こともあろうに年寄りのフクロウと結ばれたことは、周囲に大きなハレーションを発生させていたのです。とりわけ、ずっとウソ姫に告白し続けていて、しかも拒絶されっぱなしだった鳥の王・ワシの怒りはすさまじいものでした。ワシはタカを派遣してフクロウの暗殺を試み、フクロウは逃げのびたのですがウソ姫様が殺されてしまいます。フクロウは悲しみのあまり自殺しようとしませんがミズクに止められ、高野山に上って出家し、生涯、ウソ姫様をとむらい続けたのでした……。



画 齋藤倫瑠

突然の恋と奇跡のような幸せ。相手を思いやるがゆえの心の葛藤と苦しみ。友情と嫉妬。全てを奪う突然の暴力。そのあとに続く果てしない悲しみ。現在私たちが映画やテレビその他で目にする、ほとんど全ての恋愛ドラマの類型は、この、身近な野鳥たちを題材として書かれた500年以上も前の御伽草子の世界において既に完成形に達し、余すところなく描かれています。

無断転載はおやめください。

<これからの季節に観察できる生き物>

○調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチヨウ（黄葉）、イロハモミジ（紅葉）など

○調査対象種以外

＊渡りのシギ・チドリ類などの鳥類

＊各種昆虫、両生類、は虫類など

＊希少生物（生息地・生息数が減少している生物）、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内 初冬の三番瀬で冬鳥と干潟の生き物を観察しよう！

三番瀬は東京湾の最奥部にある約1,800haの干潟・浅海域で、アサリ、カニやゴカイの仲間など様々な底生生物が生息し、スズガモやミヤコドリなどの鳥類も飛来します。

今回の研修では初冬の三番瀬で冬鳥と干潟の生物を干潟を歩きながら観察します。

●開催日（雨天中止）

令和7年12月6日（土）10:30～12:30（予定）

●定員：30名（申込者多数の場合は抽選）

●対象：団員、小学生以上（要保護者同伴）

●申込締切：令和7年11月25日（火）必着
（メール、郵送またはFAX）

※ 詳細は申込案内書をご覧ください